

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104042		
法人名	医療法人社団 松涛会		
事業所名	グループホームケアタウン江の浦		
所在地	山口県下関市彦島江の浦町9-4-5		
自己評価作成日	平成25年3月1日	評価結果市町受理日	平成26年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年5月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

交通の便がよく、住宅街・商店街に隣接、気軽に外出できる環境にあり、「地域の中でいきいきと、その人らしくゆったりと、楽しく 自由に ありのままに」の理念の下、一人ひとりを尊重し、安全で穏やかな生活を支援しています。散歩中に出会う方々だけではなく、ボランティアの方々や、近隣の保育園との交流を通じ、地域との関わりも増えてきています。併設病院、訪問看護ステーションとの密な連携で、心身の健康をサポートし、入居者ご本人、ご家族とも安心していただける生活の場です。入居者様は人生の先輩であるという敬愛の念を忘れず、一人ひとりの思いを大切に受け止め、寄り添うとともに、ご家族、地域の方々とともに支え合うという気持ちで毎日を送っています。内外研修に積極的に参加をし、向上心を持って専門性を深める努力を続けています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の希望や段階に応じて、外部研修を受講する機会を確保しておられる他、法人研修や拠点内研修への参加や内部研修は毎月1回実施されるなど、職員が働きながら介護技術や知識を学べるように支援しておられます。職員会議や年3回の個人面談等の他、日ごろから職員の意見や提案を聞く機会を設けておられ、職員からの意見や提案を取り入れて、管理者を中心に働きやすい職場づくりに取り組み、サービスの向上や質の確保につなげておられます。地域の保育園から発表会への誘いがあり利用者と一緒に見学に行かれたり、地域の理美容院の利用や地域の夏祭りに利用者と一緒に参加して地域の人たちと交流されるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けるように支援しておられます。
--

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念の唱和をし、意識を高めることで、理念に沿った一日を過ごせるように心がけている。理念の意味を考える機会を持ち、全員で考え共有、実践に努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。理念について勉強会を実施する他、申し送り時に唱和をしている。日常のケアの中で管理者を中心に職員間で話し合い、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流しているとは言えないが、運営推進会議に参加されている地域の方を通して夏祭りに参加したり、保育園児との交流など、機会は増えている。認知症家族の会との交流も続けている。	近隣の散歩時、スーパーでの買い物時に地域の人と挨拶を交わしたり、地域の理美容院の利用、保育園の発表会の見学、地域の夏まつりに参加して地域の人と交流している。保育園児の来訪やボランティア(バンド演奏、お茶会)の訪問がある。管理者は地域の認知症家族の会の会合に参加して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症の理解や支援の方法を確認したり話し合ったりし、参加して下さっている地域の方々に伝えていくように努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義を理解するとともに、まず個人が評価を行い、個人の反省点、評価結果を活かして具体的な改善をしていけるように取り組んでいる。	評価の意義を説明し、全職員が記入して話し合い、管理者がまとめている。評価をすることで職員は日々のケアの振り返りや見直しとしている。外部評価を活かして運営推進会議のメンバーの増員など、具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用者やサービス行事などの現状報告をし、参加者の方々から意見を頂いている。またその意見は職員に伝えられ、会議録に残し日々のケアに活かしていけるように努めている。	新たに民生委員1名をメンバーに加え、2ヶ月に1回開催している。利用者の状況報告、活動報告、研修報告、事故報告、外部評価結果等の報告をして、認知症や防災訓練などについて話し合っている。防災訓練時の民生委員の見学や地域の夏まつりへの参加など、意見を活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加し、情報交換するほか、分からない点は介護保険課担当職員へ相談し、助言をもらっている。	市担当課と、運営推進会議議事録提出時に、事業所の抱える課題や利用者に関することを相談し、助言を得るなど協力関係を築いている。地域包括支援センターとは運営推進会議の他、熱中症等の研修やケアについての相談をして助言を得ている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、防犯対策として、職員が一人になる夜間帯の時間のみ施錠している。	マニュアルがあり、職員は内部研修で学び、理解して、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠はせず、外出を察知した場合には一緒に出かけている。スピーチロックについては、日常のケアの中での具体的な事例に基づいて職員間で話し合いをしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内の勉強会で、高齢者虐待関連法や、虐待につながる不適切なケアについて学び、虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して、勉強会で取り上げたが、個々の必要性を関係者と話し合い、活用できるような支援はまだ行えていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、管理者より十分な説明が行われ理解、納得していただけるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情はいつでも受けられるような体制を作っており、面会時に日頃の様子を伝えたり、家族からも話しやすい雰囲気作りに努めている。受けた相談や苦情については話し合い、運営に反映させるよう努力している。	相談苦情の受付体制や苦情処理手続きを定め、契約時に説明している。運営推進会議時、面会時、行事参加時(クリスマス会など)、電話等で意見や要望を聞いている。運営に反映させるまでの意見や要望は出していない。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な面談と常日頃の会話の中でも意見を聞くように努めており、業務に関することやケアに関する意見を反映させている。また、管理者の思いも機会あるごとに伝えられている。	管理者は職員会議や年3回の個人面談時に意見や提案を聞く機会を設けている他、日常の業務の中でも聞いている。職員から、入浴時の安全やパーソンセンタードケアの研修、防災時の地域との協力等の意見があり、検討して反映に努めている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全体の思いに応じて、各自が向上心を持って働けるように職場環境、条件の整備に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保し、そのための勤務体制を考慮しながら職員全体が働きながらレベルを上げて行くように進めている。	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供し、受講後は復命し、資料を供覧している。法人研修や拠点内研修(一次救命、脳血管障害、感染予防など)に参加する他、内部研修(接遇、パーソンセンタードケア、転倒、理念、虐待防止など)を月1回実施している。日常のケアの中で、介護技術や知識を学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などを通じて、同業者と交流する機会を作り、情報交換を行いながら、サービスの質を向上できるように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が安心できる環境づくりに努めながら、本人の訴えを傾聴し、否定をすることなく受容することで信頼関係を深める努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時から家族が困っていること、要望、不安なことにしっかり耳を傾け、信頼関係を深める努力をしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族に必要な支援とグループホームで可能な支援も含め、見極めるためのカンファレンスも行いながら対応することに努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つ屋根の下、ともに生活している家族と考え、同じ視点に立ち、どんなことでも一緒に行うよう努め、喜び、悲しみを分かち合いながら信頼関係を築く努力をしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にしながら、一緒に過ごす時間を作り、ともに支え合う関係を築くよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所との関係が途切れないように、外出支援で訪れ継続して支援に努めている。	親戚や友人、近所の人の来訪、地域の馴染みの店での買い物や理美容院の利用、地域の夏まつりへの参加、自宅周辺のドライブを支援する他、家族の協力を得て、墓参り、法事への参加、外食など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、団らんや食事の席の位置取りや会話の誘導などを心がけながら、利用者同士の関わりを大切に、支え合えるような支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方に対して、年賀状の送付など行い、関係が途切れないように努めている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の思いや希望を受け入れ、可能な限り意向に沿えるように努めている。	センター方式のシートを活用してアセスメントを行い、年1回見直しをしている。日常のケアの中での言葉や行動等を記録し、共有して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合には、家族や職員間で話し合い、本人本位に検討している。日頃から寄り添うケアに取り組んでいる。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、また入居されてからも機会あるごとに家族から聞き、本人からも会話の中で聞き取る努力をし、生活歴の把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に本人本位の視点で観察をし、情報を共有、変化を見落とさないように状況の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のミーティング、カンファレンスをはじめ、日々の申し送り時に必要に応じてミニカンファレンスを開き、意見交換している。介護計画作成時には本人家族の思いも聞き取りながら作成している。	計画作成担当者、利用者の担当職員を中心に月1回ケアカンファレンスを開催し、本人や家族、主治医、看護師等の意見や要望を参考にして、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングを実施し、見直している他、要望や状態の変化に応じて、見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ふれあい記録に日々の様子を記入し、情報を共有している。気づきはその都度話し合いながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望による外出外泊をはじめ、外出支援の時に家族と合流したりし、その時の状況に合わせた支援、受入れに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の美容院、理容院の利用や、スーパーでの買い物、保育園との交流、地域の祭りへの参加等を行いながら、本人が心身ともに豊かに暮らせるように、また生活を楽しめるように支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族納得の上で、ケアタウン内の内科医がかかりつけ医となり、月2回の往診や緊急時の対応も含め適切な医療を受けられるように支援している。他科受診の時に家族が付き添えない場合は職員が代行している。	本人や家族の同意を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。2週間に1度の往診がある他、緊急時の対応や受診の支援をしている。他科受診は家族の協力を得て支援し、受診結果等は家族と共有している。訪問看護やかかりつけ医の看護師と協働して適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護、かかりつけ医の看護師にて、週3回の訪問を受け、その都度利用者の体調について報告をし、体調不良時には速やかに医療機関を受診している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけ医と総合病院、母体である病院との関係が密であるため、早急な対応ができる。医療連携を行っている訪問看護の協力を得て、情報交換をしスムーズな対応ができている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の要望を受け入れ、かかりつけ医、訪問看護との話し合いも十分に行い、全面的な協力のもと、看取りを行うことができた。	契約時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」に基づいて、事業所ができる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族、主治医、看護師等の関係者と話し合い、医療機関や他施設への移設を含めて方針を共有し、支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット、インシデント・報告書を積極的に書くことで、情報を共有し、再発防止に努めている。ドクターが中心となり、AEDの使い方や緊急時の対応は学んだが、実践力を身につけるには訓練不足である。	インシデント・アクシデント報告書に記録し、その日の職員と対応策について話し合い、朝の申し送り時に報告し、共有して一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。全職員が一次救命講習を受講し、看護師からバイタルサインの取り方や転倒への対応などの実技や感染症予防の指導を受けているが、職員全員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、マニュアルもあり、知識を学んでいるが、具体的実践的な能力は身につけていない。地域との協力体制は構築中である。	拠点内の事業所と合同で年2回避難訓練を実施している。1回は消防署の協力を得て、利用者と一緒に避難訓練や避難経路の確認、通報訓練、消火器の使い方の訓練を実施し、民生委員が参加し見学している他、夜間想定訓練を1回実施し、職員連絡網での通報訓練にも取り組んでいる。運営推進会議で災害時の対策について話し合っているが、協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を忘れず、プライバシーの保護には十分に気をつけ、人格を傷つけるような発言や対応をしないように努めている。	内部研修で学び、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。日常のケアの中で不適切な対応があれば、管理者が指導している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表せるような関係づくりをし、自己決定できる支援を心がけている。表せない方に対しても、その思いや希望を汲み取る努力をしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、一人ひとりの生活を第一に考え、ペースを大切にしながら、希望に沿えるよう努めている。(パーソン・センタードケアの実践を心がけている。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を選んで自由に更衣をしたり、お化粧をされている。またご自分で更衣できない方には希望を聞きながら自己決定できるよう支援、一部介助にて更衣できるよう努めている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付けまで、利用者と一緒にに行っているが利用者主体とは言えない。食べられない方には好みのものを用意し、楽しみながら食事ができるように努めている。	法人からの配食を利用している。献立に利用者の好みを取り入れる他、季節の行事食(おせち料理、ソーメン流し等)や月1回のおやつづくり、誕生日のケーキづくりをしている。利用者と職員は一緒に盛り付けや配膳、下膳等をして、同じ食卓で和やかに食事をしている。家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量は個人に合わせている。栄養バランスは管理されている。水分量は一日を通じて摂取できるよう記録をし、飲めない方にはお茶ゼリーなどで水分補給できるよう支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の能力に合わせた口腔ケアを行っている。義歯は毎晩ポリデント施行により清潔保持に努めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつ(リハビリパンツ)の使用は夜間のみとし、昼間はショーツとパットを使用、一人ひとりの排泄パターンに合わせて声かけ誘導を行うことでトイレでの排泄を行っている。	排泄チェック表で利用者一人一人の排泄パターンや習慣を把握し、声かけや誘導の工夫をして、トイレでの排泄の支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に、朝食前に牛乳を飲んでいいる。一人ひとりの排便パターンに合わせて、緩下剤の調整や服用を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	午前、午後通して入浴できる体制を取っており、一人ひとりの希望に合わせて無理をせず、安心して楽しんで入浴できるよう支援している。	入浴は毎日、10時から12時までと13時30分から15時30分までの間可能で、希望によっては17時頃まで入浴することができ、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。利用者の状態によりシャワー浴や清拭、足浴などの対応をしている。入浴をしたくない人には、仲の良い人に声をかけてもらったり、タイミングや声かけの工夫など、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣や体調など、その時々状況に応じて休息したり、良眠できるよう支援を行っている。不眠時はそばに寄り添い安心して眠れるように支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局と連携の上、服薬セット時、セット後のダブルチェックに加え、服薬時は氏名、日時の読み上げを行い、確実に飲み込むまで見守り確認を行っている。変更などは連絡ノートで全員に知らせている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の生活歴や、能力、好みに合わせて、できることややりたい事に参加できるように支援をし、生きがいを見つけられるように努めている。	お茶会、習字、案山子づくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、食事の準備、片付け、プランターの水やり、カレンダーづくり、テレビ視聴、新聞読み、読書、タペストリーづくり、縫い物、体操(テレビ、バランスボール、リハビリ)、ボーリング、書写、テーブルピンポン、季節の行事(節分、月見、クリスマス会など)、ウェディングファッションショーなど活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人ひとりの希望に応じて、近所へ散歩に出かけている。普段は行けない場所なども、家族の協力のもと外出支援として車を使って外出し、生きがいや楽しみが持てるよう支援している。	買い物、散歩、初詣(彦島八幡宮、住吉神社、中山神社)、地域の夏祭り、法人の文化祭、花見(桜、バラ、紅葉など)の他、家族の協力を得ての外出、外出、墓参り、法事への出席など戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や使うことの支援は行っていないが、機会を作って行けるように努力していきたい。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	外部からの電話の取次ぎは行っている。本人が自ら電話することはないが、希望があれば支援する。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度、換気、日差し等に配慮し、心地よく過ごせるように努めている。季節の花や飾りをしたり、不快な音をできるだけ出さないよう心がけている。	開放感のある明るいリビングには、テーブル、椅子、ソファを配置し、窓際には陶器や絵皿、五月人形、季節の花等を飾っている。窓から遠くの山など自然の景色や町並みが眺めることができ、ベランダのプランターには季節の花を植えてあり、季節を感じることができる。室内の温度や湿度、換気の配慮して、利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置を工夫し、お気に入りの場所で好きなように自由に過ごせるようにしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や思い出の品などを持参し、心地よい空間を作り安心して暮らせるように工夫している。	ベッド、ダンス、テーブル、衣装ケース、ソファ、神棚、造花、絵、家族の写真など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレの位置を分かりやすく表示したり、移動、排泄などの支援の方法も一人ひとりの能力に合わせて行い、自立した生活ができるように工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームケアタウン江の浦

作成日：平成 25年 11 月 20 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練が不十分である	全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の実施	・一次救命訓練の継続 ・医療連携先の看護師より助言をもらい選択したテキストを使用し、引き続き知識を学ぶ。 ・小規模多機能と合同で、より実践的な訓練を行う。	2ヶ年
2	36	地域との協力体制の構築	地域との双方向の協力体制の構築	・近隣の住民へも避難訓練の案内を出し、最初は見学、次回からは利用者見守りでの参加というように、段階的に参加していただけるようにする。 ・消防署職員に運営推進会議メンバーになってもらう働きかけをし、救命救急・防災訓練における助言、指導をもらう。 ・下関市消防防災学習館『火消鯨』の無料訓練に参加する。	2ヶ年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。